

# 総合の学習は楽しい？

元横浜市立大岡小学校校長 **たけだ あつこ**  
**竹田 惇子**

「総合ってすごく楽しい！」「来年度はどんな材にしようか、ワクワクしている」「総合は子どもも大好き、学級づくりの核になっている」というような声がある一方で、「何をしてよいかわからない」「材が決まらないので不安」「70時間もあるなんて多すぎ」「気が重い」なんて声も聞こえてきます。

さて、あなたはどちらの派でしょうか。

「総合的な学習の時間」（以下、「総合」）が創設されて約30年が経過しました。全国の学校では様々な取り組みがなされ、優れた実践も多く見られます。

総合の学びは、探究的な学びです。子ども達が自ら設定した課題解決に向けて探究的に学ぶことで、目指す資質・能力が育まれ、学びに向かう力や、自らの生き方や在り方を考える姿勢も培われます。また、総合の学びを各教科等と関連づけることで、子どもの興味・関心が高まり、双方の学びが活性化するという効果もあります。

総合の学びは、地域とつながる学びです。地域の人や自然、物や事とふれあう具体的な活動が総合には欠かせません。地域と学校がつながることにより地域への関心や愛着が増し、地域で生きる子どもに、生きて働く力を高めるものともなります。

こうした総合のもつよさや魅力が認知される一方で、「教科書や指導書もなくしてどうしてよいかわからない」「行事等に使ってしまい、実践は十分にしていない」等の話も聞きます。「材の見つけ方がわからない」「単元はどうやって立ち上げるのか」「子どもの思いはどう生かせばよいのか」「1年間を見通した単元構想が難しい」「学年総合か学級総合か」「途中で計画の変更はしてもよいのか」「子どもに任せただけでよいのか」「評価はどうするのか」等々、多くの疑問や悩みがありそうです。

本冊子『どうする？総合』では、様々な実践例を取り上げてよさや課題について考えたり、数々の疑問にこたえたりしていきます。そして、総合のよさや魅力、学びの在り方について、ともに考える場したいと思います。

この創刊号では、「単元はどうやって立ち上げる？」をテーマに取り上げました。総合で一番多く聞かれる課題です。新しい学年が始まる今、多くの教師が悩んでいるところではないでしょうか。単元を立ち上げるために、教師は何をしなければならないか、大切にしなければならないことは何か、具体的な事例を通して提示していきます。

子ども達の多くは、総合の学習を楽しんでいるのではないのでしょうか。生き生きと学ぶ子どもの姿を多く見てきました。

総合を子ども達とともに楽しみ、学びを創り出していきましょう！その指針となり、一助となれば幸いです。



**竹田 惇子**

横浜市小学校教諭、同市教育委員会指導主事、同市戸部小学校校長や大岡小学校校長、文部科学省の教育課程部会生活科・総合的な学習の時間専門部会専門委員などを歴任。光村図書「せいかつ」教科書編集委員。生活科・総合的な学習の講師として多くの学校で活躍中。